

小児感染症コース

主たる研修病院 (所属病院)		東京都立小児総合医療センター
連携して研修する病院・施設(予定)		国立国際医療研究センター、多摩総合医療センター、杏林大学、The Hospital for Sick Children(カナダ トロント)
研修時に必要とする知識・技量 (応募資格)		小児感染症専門医取得もしくは取得相当、日本小児感染症専門医の認定教育の研修終了済みまたは2026年度に終了予定
コース 責任者	氏名(所属)	堀越裕歩(東京都立小児総合医療センター 総合診療部 感染症科、免疫科)
	資格名	日本小児感染症学会専門医・指導医、日本小児科学会専門医・指導医、感染制御医(ICD)
	専門分野	小児感染症、感染対策、抗微生物薬適正使用、ワクチン、国際保健
臨床指導体制		日本小児感染症専門医・指導医が3名、日本感染症専門医・指導医が1名、ICDが4名おり、国内で屈指の指導体制がある。臨床および感染対策、抗微生物薬適正使用などの病院の質と安全管理の能力も経験・育成し、院内だけではなく地域の医療機関への啓発や指導を行うことを通して、将来、幅広い対応能力を養う。細菌検査室では、自動同定感受性機器、質量分析器、PCR機器などがあり、微生物学的検査の質管理などを担う。
臨床研究	これまで 行ってきた 研究と実績	微生物では、黄色ブドウ球菌の毒素解析、A群溶連菌の遺伝子解析、腸内細菌属の耐性遺伝子解析、呼吸器ウイルスの定量解析、エンテロウイルスの遺伝子解析などを行ってきた。疫学研究では、感染対策、抗微生物薬の適正使用などでは、厚労科研費を獲得して研究を行ってきた。国内外の論文として発表をしていて、国内の保健行政、WHOのマニュアル作成など国際的にも貢献している。
	今後行う 研究と 研究体制	細菌、ウイルス、真菌などの微生物における病原性、遺伝学的解析、耐性遺伝子の解析を行っていく。豊富な院内の疫学データ、地域のOASCISデータを持ちいて、効率的な感染対策、抗微生物薬の適正使用の手法の検討を行う。遺伝子研究室に各種解析可能な研究機器を揃えている。
研修項目		
研修内容・達成目標		小児感染症における幅広い分野の臨床経験を積み、診断、治療、予防などが行えるようになる。チーム医療をリーダーとして率いて、感染対策や抗微生物薬適正使用における病院の質改善を行えるようになる。地域と連携して、感染対策などの向上を行えるようになる。総合的な小児感染症の専門家を目指す。
コース内容に関する 問合せ先		堀越裕歩(東京都立小児総合医療センター 総合診療部 感染症科、免疫科) yuho_horikoshi@tmhp.jp